# 十カ月ぶり工事再開

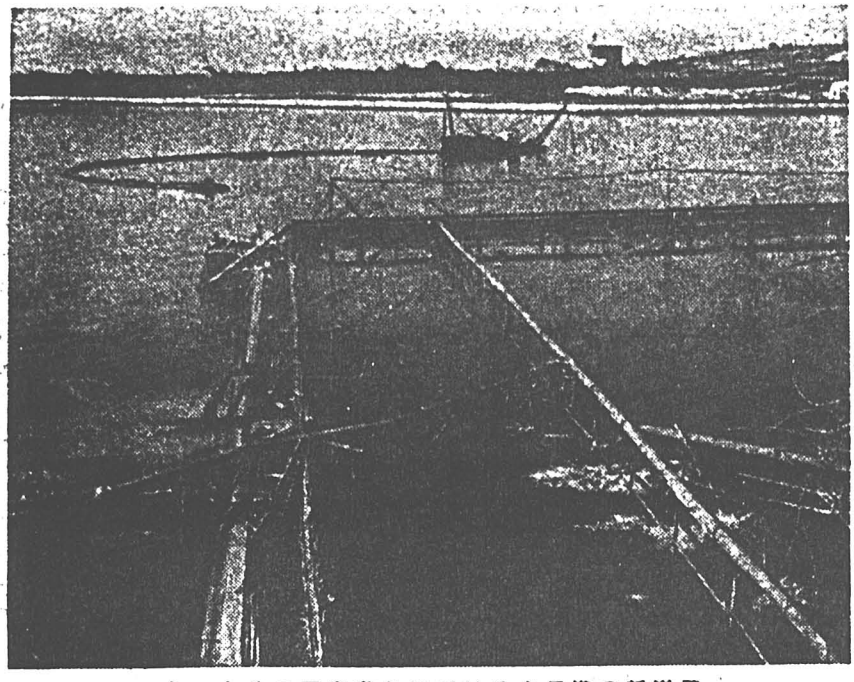
水俣港改修

## 黒いドベで埋め立て

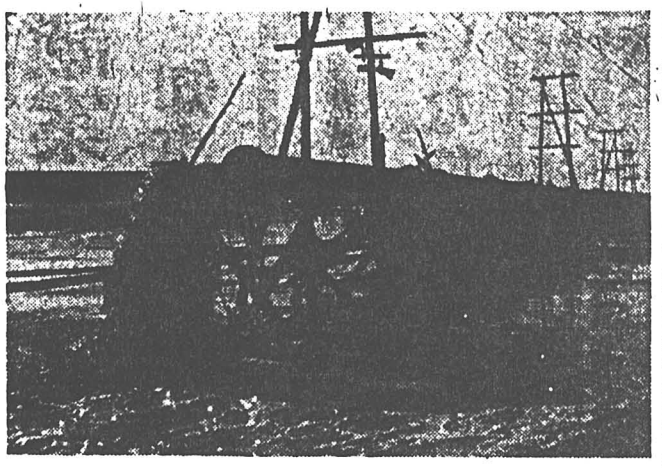
### 来月に大型船も接岸

水俣市民の長い間の念願だった水俣港の改修工事は、昨年二月から三年ぶりに着工されたものの、翌月に入ったため約二カ月間で中断されていたが、このほど十カ月ぶりで再開され、泥土のしゅんせつ工事が突貫作業で進められている。

本年度分のしゅんせつ区域は、一千九百坪方㍍、しゅんせつ泥土は新岸壁に沿った航路および泊地二十二万二千五百立方㍍、真藻湾一帯のしゅんせつ船「長門丸」が、海面から埋め立て新岸壁に囲まれた埋め立て予定地までパイプをつなぎ、泥土を水といっしょに流し込んでいる。埋め立て地の周囲は高さ四㍍ほどの木サクをつくり、泥土が外へ流れ出ないように、注意を払って工事が進められているが、"黒いドベ"と呼ばれ、水俣病の原因となった有機水銀をふんでいたといわれるだけに、パイプからはき出される水は気味が悪くなるほどドス黒い。



しゅんせつ工事を急いでいる水俣湾の新岸壁



しゅんせつ土はパイプで埋め立て地に送られるが、黒い水は気味が悪いほどだ

同港は三十一年貿易港となり、三十五年には重要港湾の指定を受けた。三十七年には長さ百㍍、五千㌧級接岸の新岸壁もできたが、水俣が言いうえに野積み場もなく、せっかくの新岸壁は利用価値がなかった。しかも漁協が「水俣病再発のおそれがある」と工事再開に反対の態度をとっていたため、しゅんせつも進まなかった。

しかし市民の間から早期改修の声が高まり、市のあっせんで県と漁協との調印が一昨年末に成立、工事再開にこぎつけた。昨年二月しゅんせつ工事が始まったが、四月から漁期に入ったため一時中断されていたもの。本年度の工費は千八百万円。ほとんどがしゅんせつの予算で、三月末で第一期のしゅんせつ計画は完了、水深は六・五㍍になるので、四月からは五千㌧級の大型船一隻が新岸壁に接岸できるようになる。

県の新五カ年計画では、四十四年度までに百十㍍の第二岸壁、取り付け護岸など約三億円で完成することになっており、完成すれば五千㌧級二隻が接岸できる。なお市では本年初めから第二岸壁予定地の一部、八千六百万平方㍍の海面を締め切り、通産省用水アルコール工場の貯蔵タンク設置のため、土地造成も進めており、来年度からは三年ケ浦の埋め立てを行ない、バスターミナルや航送船用の可動橋をつくる計画なので、水俣湾にもようやく春が訪れるようだ。